

ビタミンK微量・頻回投与による ビタミンK欠乏性出血症の予防

静岡赤十字病院小児科 池田 稲穂

方 法

ビタミンK₁末1mgを生後0～1日，生後6～7日（産科退院時）生後14日，生後21日計4回投与し，1カ月健診時にヘパラスチンテストを施行しその予防効果を見た。

生後14日と21日の投与は服用日を指定しK₁末1mg2包を母親に持たせて，家庭に於いて服用させた。

結 果

表1の如くビタミンK予防投与開始以前（昭和57年12月迄）の母乳栄養群ではヘパラスチン値20%以下を示したものが546例中5例見られたの

に対し予防投与開始後は329例中1例のみであった。ヘパラスチンテストの平均値は有意義に上昇していた。

人工栄養・混合栄養については表2の如くである。

考 按

ビタミンK予防投与を受けていてニアミス例となった1例は軽度の肝機能障害が認められ，ビタミンK₂5mg静注1回で，その後ヘパラスチン値の低下を見ていない。ビタミンKの吸収障害によるものであろうか？

ビタミンKの一斉投与を行なう場合にこのような例の存在を考慮して十分な説明が必要となろう。

表1 <1カ月健診>

母 乳		
S 55.3. - 57. 12 Vit K(-) 10% ↓ 4		S 58.1. - 59. 12 Vit K(+) 1
10-14	1	
15-19		
20		
25	1	
30		
35	3	
40	10	1
45	35	3
50	60	7
55	66	14
60	95	25
65	73	34
70	57	57
75	59	48
80	25	41
85	23	45
90	13	15
95	5	18
100% ↑	16	20
計	546	329
mean α	63.82% 14.55	mean 75.29% α 13.18

$t = -11.6784692 \quad \phi = 873$

表2 <1カ月健診>

人 工 + 混 合		
S 55.3. - 57. 12 Vit K(-) 10% ↓		S 58.1. - 59. 12 Vit K(+)
10-14		
15-19		
20-		
25-		
30	1	
35	6	
40	20	4
45	70	2
50	126	21
55	159	49
60	194	73
65	170	83
70	148	135
75	108	149
80	64	116
85	40	83
90	32	51
95	18	50
100% ↑	19	73
計	1175	889
mean α	64.17% 13.04	mean 75.75% α 13.20

$t = -19.7506184 \quad \phi = 2062$



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



結果

表1の如くビタミンK予防投与開始以前(昭和57年12月迄)の母乳栄養群ではヘパラスチン値20%以下を示したものが546例中5例見られたのに対し予防投与開始後は329例中1例のみであった。ヘパラスチンテストの平均値は有意義に上昇していた。人工栄養・混合栄養については表2の如くである。